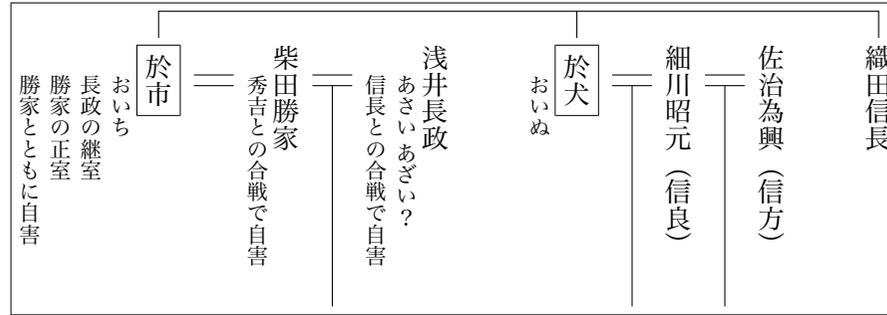


familytree sample  
浅井三姉妹家系図

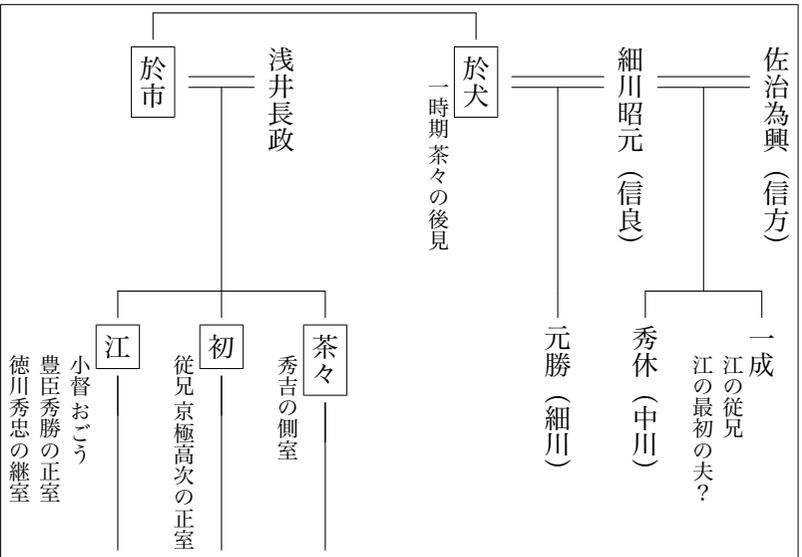
(OIchi)



なんでそんな名前なの？  
と言うのは置いといて。

- お犬の方は二度結婚し、二度とも子をもうけた。佐治為興の息子が後で登場する。
- お市の方も二度結婚し、最初の結婚で娘を三人産んだ。これが主人公。
- お市の方は物語によく取り上げられ、大層美人だったという話だ。秀吉は恋い焦がれたが、それでいて戦い、滅ぼすという時代。

(Osis)



- この時代、結婚相手はいとこ、というのが多い。次女初、三女江の相手がそう。
- お犬の方は長女茶々の面倒をみたり、先夫との息子と三女江を結んだりと大活躍か。茶々の後見となっていた期間はどんなものだろう？ 佐治為興が戦死したため実家に戻り、再婚するまでの間なのだろうか？だとすると茶々が五歳から八歳までか。お市の方は存命だし、茶々もまだ可愛い頃だろうから、それほど手を焼くことも無かつたのではなかろうか。

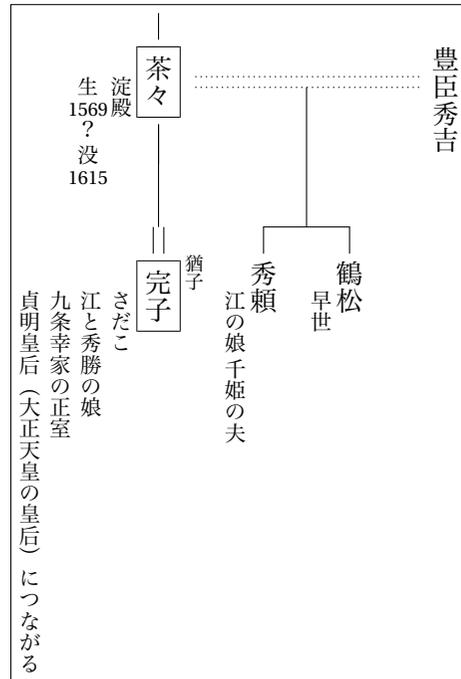
- お犬の方の吊いの際には先夫との息子が立ち回ったそうで、親子仲は良かったらしい。

人物の話からは逸れるが、\mrrgdef interface の欠点が分かった。間隔を空けるには \valbox を挿入するが、spouse 名の前に入れなければならない。

これは良くない。早々に直したいが、さてどうやろう。

familytree pkg の今後の課題としたい。

(1Chacha)



• これも物語でよくあるが、茶々は親の仇の秀吉の側室になった。淀殿と呼ばれ、秀吉亡き後の強情ぶりは有名だが、そんなに気が強いのならば側室になる際にも一波乱あつたのではなからうか。

• 秀吉は元々お市の方に惚れており、自分との合戦でお市の方が自害し、後にその娘茶々を側室にした。助平に権力を持たすと美人に類が及ぶということか。でも衆道が当然の戦国大名の中で、秀吉はそっちに見向きもしなかった。

三姉妹の中で茶々が一番母親似の美人だ(だから秀吉が側室にした)という話と、そうでもないという話と両方ある。

• 秀吉には中々子が出来なかった。実子を産んだと確認できているのは茶々だけ。第一子は早世し、誕生の喜びが大きかっただけに落胆も相当なものだったらしい。

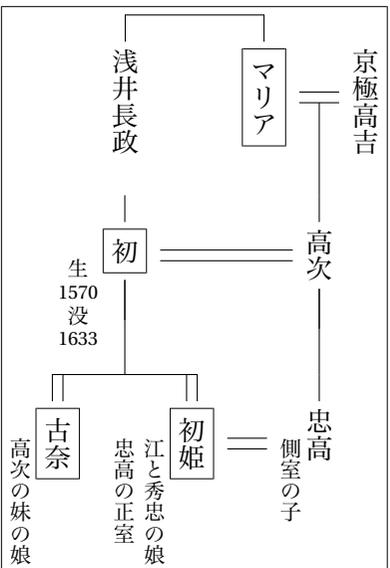
• 第一子早世後、実子を諦め、養子秀次および秀俊を後継者候補とした後に、第二子

秀頼が誕生した。既に関白職を譲られていた秀次は冷遇されるようになり、最終的に切腹させられた。秀吉が一方的に非道という話があれば、秀次が関白職を返さず対立したとか、残虐行為が甚だしかったとかいう話もある。

もう一人の後継者候補秀俊は、秀吉正室ねねの甥であり血縁も近かったが、小早川家へ養子に出された。後継者候補ということと諸大名が随分接待し、子供の頃から酒を呑んでいた。その後候補から外れても酒は呑み続け、早くからアルコール中毒になっていたらしい。これが後の小早川秀秋であり、その名を秀吉死後の関ヶ原で歴史に大きく残すことになる。

• 茶々は妹江の再々婚を契機に江の娘完子を猶子にした。養子みたいなもんじゃない。しっかり養育したらしく、完子は公家に嫁ぎ、子を残した。子孫は現在の皇室につながる。

(2Hatsu)



- 次女初は父の姉の子、要するに従兄に嫁いだ。子はなく、養女を二人とつた。一人は江の娘、というか將軍の娘初姫。その初姫と夫が側室に産ませた子を結婚させる。凄いな、これ。実子ではないとは言え、娘と息子(相当)の結婚。これは初が嫁いだ家のことを最優先に考えたということだろうか。

でも初姫の結婚は幸せではなかったらしく、父親である二代秀忠、弟である三代家光は結婚相手に対し怒ったという話がある。

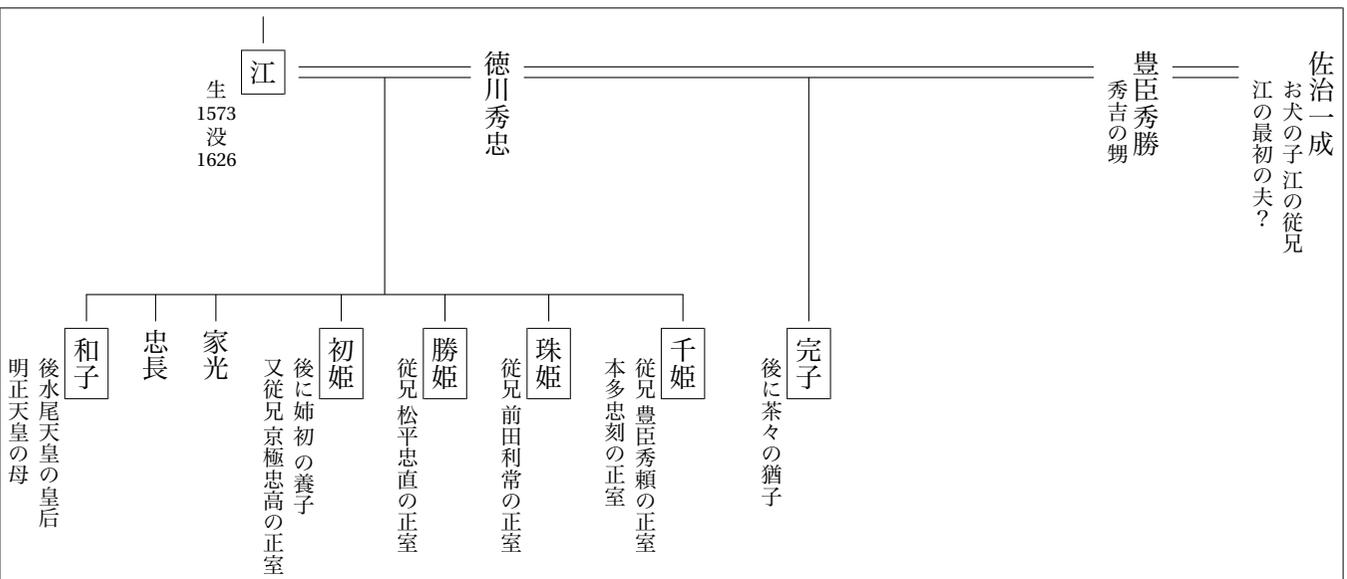
- 豊臣と徳川が争った時に初は和議に尽力したとある。自分の姉と妹それぞれの嫁ぎ先だ。存在感が大きく感じられないのは性格

が穏やかなのだろうか。と言うか、姉と妹がぎつすぎるのかもしれない。既に夫と死別していたので自分で頑張ったらしい。

- 長政の姉のマリアとは洗礼名だが、本名が分からないらしい。敬虔かつ質素な生活だったとのことだが、戦国の世をどう見ていたのだろうか。

人物の話からは逸れるが、この図を latex するのは難しかった。三世代の婚姻関係と親子関係が密接だ。 familytree pkg 本来の機能では対応切れず、所々座標を写すという細工を入れている。

familytree pkg の今後の課題としたい。



• 三女勝姫も嫁いで幸せだったと思われるが、夫の方がいまいちな奴で早くに隠居させられた。勝姫はその後も口をよく挟むうるさい奴だったようだ。

• 三女江は子が多い。再婚で一女、再々婚で二男五女。子は皆幸せに巣立った、と言いたいところだが、次男忠長はそうでもなかったようだ。

この辺の話は長男家光の乳母春日の局関係でよく出て来るが、幼少期は家光よりも忠長の方が出来が良く、母江からも可愛がられ将来を有望視されていたけれど、春日の局が家康に直訴した結果「三代目は家光」と周知された。忠長の姓は徳川から松平に変えられ、江の没後は忠長の乱暴が目立つようになる。家光は初めはできるだけ穏やかに遠ざけていたけれど、最終的に切腹となった。うん、なんか秀頼誕生後の秀次の話みたいだ。

• 秀勝と江の娘完子は茶々に引き取られ、公家に嫁いだ。

• 秀忠と江の長女千姫は家康に大層可愛がられたという話がある。祖母であるお市の才覚と容姿を受け継いだとか。政略結婚で豊臣秀頼、本多忠刻と結婚し、夫婦仲は円満だったそう。

• 次女珠姫は加賀前田に嫁ぎ、今も金沢では有名人。夫婦仲は円満だったが、珠姫の乳母が余計なことをして最後はちと悲しい話。

• 四女初姫は江の妹である初の養子になる。

• 五女和子は後水尾天皇に嫁いだ。幸せと思われるが、うーん、入内時に天皇が女官

との間に子をもうけていたことが発覚し、ごたごたがあった。当時は幕府が朝廷に対する締め付けを強化し始めており、和子が入内した後も事件が起こり、天皇は幕府に腹を立てたのか雲隠れするように皇位を突如譲位してしまう。と言っても後継男子はおらず、次女の女一宮興子が天皇となる(明正天皇)。今のところ、これが最後の女性天皇ということだ。個人的には女性も女系(母系)も認めて、範囲や優先順位を決めるのが良いと思うがなあ。

後水尾は上皇となって院政を敷いたので、明正天皇はあまり活躍できなかったようだ。でも和子は夫を理解し、賛同していた。つまり兄である三代家光とはちよっ

と対立状態があったらしい。そのせいか和子以降は長いこと徳川からの入内はない(昭和時代になって慶喜の孫が昭和天皇の弟に嫁いだ)。逆に天皇家から徳川への降嫁はあり、これが有名な十四代家茂に嫁いだ和宮親子(ちかこ)。

人物の話からは逸れるが、この図をあまり綺麗ではない。婚姻関係を表す二重線から子へつながる線を描く場合、二重線の中点を始点とするのが良いと考えていたが、江の系図では秀忠との子が多く、秀勝との子は一人だけだ。結果的に秀勝の位置が大きく離れることになってしまふ点が良くない。

この点も familyree.plg の今後の課題としたい。